

## 「あわれみ深い者」(要旨)

聖書箇所：マタイ 5:7

## 【1】あわれみ深い者

山上の説教の幸いシリーズの五回目、今日からいよいよ後半です。今朝は「あわれみ深い者は幸い」(7)についてです。

前回までは私たちの心の状態に焦点が当てられてきました。神の前に心貧しくされ、罪を悲しみ、柔和な心を持ち、そして義に飢え渴く者の幸いについてでした。本日から、私たちの他人に対する態度に思いを寄せます。

## 【2】あわれみは外に向かって表れる愛

ここで言う「あわれみ」(エレミ)は、窮状にある人々に対して抱く同情心が、愛として外に向かって表現されることを意味します。すなわちこの「あわれみ」は、かわいそうに思う感情だけではなく、行動が伴うということです。他人の必要に対して同情し、実際に応えることなのです。

マタイの福音書にたびたび登場する「あわれんでください」(マタイ 15:22, 17:15, 20:30-31)という訴えは、どれも実際の助けを求めています。それに対して主イエスは「あわれみ深く」必要に応じていました(R.T.フランス『ティンデル』)。

「…遭遇するすべての状況が…天から人への問いかけである。それに対する応答の連続が、即ち私たちの人生のそのものである。」

(中村哲著「わたしは『セロ弾きのゴーシュ』NHK 出版)

▷私たちはスーパーヒーローではありません。誰に対しても分け隔てなくあわれみ深くあることはできません。一緒に暮らしている家族、いつも心に覚えながらも素通りしてきた人に対して、愛を表わすことができますように。

## 【3】相手の立場に立ち、理解しようとする愛

次にこの「あわれみ」とは、相手の立場に立ち、その人の思いを理解しようとする愛です。自分はこれだけ相手のために良いことをし、犠

牲を払っているのだという自負心を超え、目の前の相手を知ろうとし、何を欲しているのか理解しようとする。すなわち相手と歩みを共にしようとする「あわれみ」です。

さらにこの「あわれみ」は自分に負い目のある人を寛容に赦すことを意味します(参照マタイ 6:12-15)。しかしそれは私たちの生まれもった性質上大変困難です。残念ながら、私たちは自分に負い目のある人をなかなか赦すことができません。それは理不尽なことだからです。しかし自分が神に赦され、救われた罪人であるという恵みを深く実感する時に、負い目のある人を赦すようにという勧めが、自分の向き合うべき課題として心に迫ってくるのです。「あなたがたの父があわれみ深いように、あなたがたも、あわれみ深くなりなさい。」(ルカ 6:36)

## 【4】あわれみ深い人は、あわれみを受ける人

主イエスは「あわれみ深い者」が「幸い」な理由として「その人たちはあわれみを受けるからです」(7)と教えられました。それは、人をあわれんだらあわれみを受けられるという交換条件ではありません。私たちは神に赦された者として、自分に負い目のある人を赦しあわれむ時、実は自分が誰よりも深く赦されたこと、そして自分がどれほど深いあわれみを受けてきたかを知るのです。それが「あわれみを受ける」ことなのです。主イエス・キリストの十字架の愛は、私たちに神のあわれみを教えます。私たちも神のあわれみを受け取り、あわれみ深い者とされますように。

「私たちがみな…生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。しかし、あわれみ豊かな神は、私たちが愛してくださったその大きな愛のゆえに、背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。」(1ペテロ 2:3-5)

